

(別紙6)

[ 認知症対応型共同生活介護用 ]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月24日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0770402170		
法人名	株式会社 ケアサポート慶		
事業所名	グループホーム よろこび		
所在地	福島県いわき市金山町朝日台132番地 (電話) 0246-62-0086		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年12月6日	評価確定日	平成20年1月28日

### 【情報提供票より】(19年9月30日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月19日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	14人, 非常勤 6人, 常勤換算11人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建て	1~2階部分	

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

#### (4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	4		
要介護3	6名	要介護4	3		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 82.6歳	最低	75歳	最高	98歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人至誠会幸島病院、塩歯科医院
---------	-------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

居室は南と東向きに設置し居室は明るく暖かい。リビングは真ん中にあり、利用者が自然と集まれるようになっている。台所は誰でも利用できるよう仕切りがなく、利用者は自由に職員と調理ができる。また、併設のデイサービスとの行き来があり、デイサービス利用者との交流を行い日々楽しく過ごしている。また、職員の質の向上を目指し、積極的に研修の参加や資格取得に取り組んでいる。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員全員で勉強会を開き、室内の温度管理、栄養バランスのよいメニューを立てる工夫や服薬間違いがないよう徹底するなど、改善課題について話し合い解決している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員が評価し管理者がまとめている。自己評価を実施することで、管理者は職員全員の考えを把握することができ、職員は日常の業務の中で一つ一つ何気なく行っていたことに意識を持つようになった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営状況の説明や監査の報告、さらに参加者から事故などについての意見や要望が出されている。また、地域の活動の情報を得て、実際に参加できるよう取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月個人ごとに担当者が写真入りの状況報告書を作成し、家族等へ送付している。その他、意見箱の設置を行い、家族の面会時には積極的に声掛けを行い、常に家族から意見や苦情を引き出すようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入り奉仕作業や作品展覧会の出展や地域の高齢者が集会場に集まり、楽しみながらリハビリを行い、筋力低下を防止する目的の「遊びり教室」に参加している。また、「遊びり教室」の時は、地域の歩行が困難な方の送迎を行っている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は事業所立ち上げの時に全職員で「一人ひとりのスキルアップとサービスの標準化を図り、地域から選ばれる事業所を目指す」という理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時や勉強会の時に理念を共有するようにしている。年度始めには職員一人ひとり理念に基づいた個人の目標を立て、ネームプレートに書き込み日々の業務の中に取り入れようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り奉仕作業や作品展示会の出展に参加したり、地域の高齢者が集会場に集まり楽しみながらリハビリを行い筋力低下を防止する目的の「遊び教室」に参加している。その際、地域の歩行が困難な方の送迎を職員が行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が評価し、管理者がまとめている。自己評価を行うことで職員は日常の業務の中で一つ一つ何気なく行っていたことに意識を持つようになった。前回の外部評価結果について勉強会で話し合い、栄養バランスのよいメニューを立てる工夫など、改善課題を解決している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、運営状況の説明や監査の報告、さらに参加者から事故などについての意見や要望が出されている。その他、地域の活動などの情報を得て、実際に参加できるよう取り組んでいる。</p>		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月個人ごとに担当職員が写真入りの状況報告書(食事、入浴、排泄、睡眠、日常生活、介護計画など)を作成し、家族へ送付している。また、変化があった時は随時電話連絡を行っている。しかし、職員異動については特に報告を行っていない。</p>	○	<p>毎月の個人ごとの状況報告者などを利用し、職員の異動などについて家族へ報告してほしい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「ご意見箱」を設置したり、請求書と一緒に意見を書いてもらうようにメモを入れたり、面会時に声をかけているが、意見などを引き出せていない。また、管理者が交代勤務の中に入っているため、家族等とゆっくり話を聴く体制が整っていない。</p>	○	<p>家族等の意見を把握するための方法を検討してほしい。また、できるだけ管理者が家族と話ができる体制を検討してほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの職員を固定している。また、離職を最小限に抑えるよう、事業所独自で資格取得制度を作り働く意欲引き出し、魅力ある職場作りを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県グループホーム連絡協議会、認知症介護実習者研修、現任者研修などに参加し、それらの報告会を内部で行い、全職員が勉強できるようにしている。また、資格取得制度を設け、模擬試験や試験のための研修に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に入会し、他のグループホームと交流している。また、いわき市内で行われる研修等に参加し、交流するとともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に糠漬けの作り方や魚のさばき方を教えてもらったり、鉢植えや金魚を育てたり、一緒に取り組むことで利用者の持っている力を活かし、共に喜んで過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護研究・研修東京センター方式を取り入れたり、個人のケース記録を作り、日常生活の中から本人の意向や思いを把握するように努めている。また、日々のミーティングで気づいたこと等を伝達し、利用者の意向等について話し合っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に職員とケアマネジャーで話し合っ て、介護計画を作成している。家族へは、作成した介護計画を面会時に説明し、要望を聞いているが、家族よりうまく意見が引き出せず事後報告になっている。	○	家族等の意思や要望を把握したうえで介護計画を作成するようにしてほしい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活の中で気づいたことを「気づきノート」に書き、それに基づいて、定期的及び随時に話し合っ てを行い、介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、近所ならば職員が通院介助を行っている。協力医へは、送迎バスを利用し行われている。病状により適切な病院を事業所と家族等で相談し、受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時と利用者の状況に応じて、医療行為が必要になった場合についての対応等を利用者や家族等に説明している。また、利用者や家族等の意向を中心に話し合い、施設でできる限りの対応が行えるよう取り組んでいる。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護については職員の採用時やボランティア受け入れ時に説明し、さらに誓約書を書いてもらっている。プライバシーについては、その都度勉強会やミーティングを開き、職員同士で話し合いを行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ドライブは週1回、買い物は毎日、散歩は一日おき等希望に応じて行われている。利用者は自分の時間で昼寝を行ったり、食後はリビングでおしゃべりをして過ごし、ゆったりとした時間を過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒になって、糠漬けを作ったりするほか、魚をさばいたり、野菜を切ったり、盛り付けなどの食事の準備をしている。また、食事のお片づけを行うなど、一人ひとりの得意分野を利用して、利用者自らが意欲的に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日昼食後から夕食後までの間に、利用者の希望に合わせた入浴が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	日常生活の中から利用者の希望や得意なこと等を把握し、食事作り、畑仕事、洗濯干し・たたみ、裁縫、グランドゴルフなど利用者の希望等に合わせて行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	ドライブや買い物、散歩などの外出支援を行っている。また、地域のグランドゴルフやラジオ体操に参加したり、新聞を見て「ここへ行きたい」と利用者から希望が出た場合は、できるだけ実現するようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者は、併設するデイサービスに訪問したり、近くの店に買い物へ行くなど、自由に玄関から出入りできるよう鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回担当を決め、避難訓練を行っている。さらに夜間を想定した訓練や職員の連絡網に沿った訓練も行っている。併設のデイサービスを地域の避難所に提供する予定がある。しかし、地域の消防団や住人の参加を呼びかけているものの実現されていない。	○	職員だけの非難誘導には限界があるので引き続き地域の方に避難訓練に参加していただく等して、協力を呼びかけてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事ごとに食事量、水分量などをチェックし、体重の測定も行い記録している。体重が増えている方へは、盛り付け量で調整している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには手作りの台に植物を置いたり、写真や利用者が作成したものをきれいに飾っている。また、廊下に椅子を置いて利用者同士の交流の場所を作っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の生活歴や好みに合わせ、水槽や使い慣れた家具を置くなどして利用者一人ひとりの個性に合わせ、希望に添った居室となっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙1）を添付すること。



3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名      グループホーム よろこび  
記入担当者名      久富 隆資

評価結果に対する事業所の意見
特になし

**評価結果に対する「事業所の意見」の記入について**  
意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。